

花火大会の外部性に関する考察

阿部 太一郎

近年の花火大会は、資金難や経費高騰の影響を強く受け、中止に追い込まれてしまう自治体が多くなっている。そのため、本研究では花火大会の継続に資する目的をもって、花火大会がもたらすホテル業への金銭的外部性を計測し、花火大会が他の主体に与える影響を分析する。

公共経済学では、花火大会は準公共財の位置づけとなるため、地域全体にどのように外部経済をもたらす財であるかが、費用負担を考える際に重要となる。本研究では、全国16大会、125カ所のホテルを対象として、通常時のホテル料金および花火大会当日のホテル料金を調査した。その結果、花火大会が開催されることで通常時のホテル料金よりも値上がりが生じていることが明らかとなり、花火大会が外部経済の金銭的外部性をもたらす財であると考察できた。また、調査したホテル料金に基づく回帰分析より、通常時のホテル料金では、4つ星ホテル・5つ星ホテルへのグレードアップが、ホテル料金に大きな影響を与えていると明らかにした。そして、花火大会当日のホテル料金では、通常時のホテル料金の1.85倍の価格設定になっており、花火会場からホテルまでの距離数がホテル料金に大きな影響を与えていることを明らかにした。

本研究を通じて、花火大会がもたらす外部性を定量的に明らかにしたことで、花火大会を開催する意義を見出すことに貢献した。